

学科課程カリキュラム 及び 授業計画

【教職課程科目】

〔履修にあたっての遵守事項〕

我が国の大学教育は単位制度を基本としており、1単位あたり45時間の学修を要する内容をもって構成することが標準とされている。ここでいう1単位あたりの学修時間は、授業時間内の学修時間だけでなく、その授業の事前の準備学修・事後の準備復習を合わせたものとなっている。この主旨を踏まえ、各教科の履修に当たっては、授業計画を参考に予習・復習に努め、1単位当たりの学修時間を確保することに努めること。

2020年度

第一工業大学

教職課程科目

凡例	☆：教職必修 無印：教職選択（但し、教科科目は適用外）															
	②：集中講義 中技：中学校技術 中数：中学校数学 高工：高校工業 高数：高校数学															
	科目区分	科目番号	授業科目	科目単位	週授業時間数								区分最低	免許別必修	備考	
					1年	2年	3年	4年	前期	後期	前期	後期				
科教育の基礎的理解に関する	6561	教育原理	2		2								11	11		
	6511	教師論	2	2												
	6562	教育経営論	2			2										
	6514	教育心理学	2			2										
	6529	特別支援教育論	1			(1)										
	6515	教育課程論	2			2										
等指道に導徳関法、す及総るび合科生的目徒な指学導習、の教時育間相等談の	6524	道徳教育	2					2					10	8		
	6532	特別活動論	1				2									
	6533	総合的な学習の時間	1				2									
	6564	教育の方法と技術	2				(2)									
	6535	生徒指導論	1				2									
	6534	進路指導論	1				2									
	6528	教育相談	2					2								
	6544	事前・事後指導	1						1							
科教育実践に関する	6545	教育実習Ⅰ	2						(2)				7	5		
	6546	教育実習Ⅱ	2						(2)							
	6547	教職実践演習(中・高)	2							2						
		計	28								28	24				

教科番号	6561	授業科目名	教育原理											
教員免許取得のための必修科目／選択科目														
開講時期	1後	単位数	2単位	担当教員名	永田 正明	担当形態	単独							
科 目	教育の基礎的理解に関する科目													
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想													
【授業の到達目標及びテーマ】														
学校における教育活動は、ひとりひとりの人間の成長・発達はもとより、国家・社会の発展に関わるものでありその教育の成否は教員の資質能力に大きく左右される。そこで、教育の理念や実践知を、教育の歴史や思想を生み出した社会的背景の中で理解を深める。そして教員を志す学生が、これまでの教育や学校の営みが果たしてきた役割を客観的に理解し、今後の教育のあり方を展望する資質能力獲得することを目指す。														
【授業の概要】														
教育の本質や目的、教授理論などを歴史的・実証的に学習する。その際、社会的教育現象は決して歴史社会から切り離されたものでないでの、西洋教育史や日本教育史の時系列における学習と、今日社会の教育課程や学習指導要領などの学校教育の実際を学習する。さらに、小テストやディスカッションも取り入れて理解を深めさせる。また、アクティブラーニングについても積極的に取り入れて実施していく。														
【授業計画】														
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）		時間(分)									
1	教育の本質を考える	基本的概念である education と indoctrinationとの違いを理解する	配布プリント(該当箇所を指示)を読む。授業プリントを復習。		30 60									
2	人間(人類)の発達と言語の役割	家族と社会における教育の基本的意味(時間と空間を超えての情報・技術の伝達)。言葉の構造	テキスト(該当箇所を指示する)を読む。 授業プリントを復習。		60 60									
3	教育と、子ども・人間の発達	赤ちゃん学から information seeker としての人間存在の本質／人間的環境(親、学校、地域社会など)の重要性を学ぶ。	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。 授業プリントを復習。		30 60									
4	発達環境としての人間的社会)	「狼に育てられた少女」の話の真偽と、学ぶべき教訓	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。 小テストの準備。		30 60									
5	西洋教育思想の展開と社会背景(1)	ソクラテスの教育思想と方法。西洋中世の共同体と人間	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。 授業の復習をする。		60 60									
6	西洋教育思想の展開と社会背景(2)	イタリアルネサンスと人間的自然の思想、欲求的人間の覚醒	ルネサンスの美術などを調べ、何が「欲求的」か、を考えて発表。 発表されたものをまとめる		120 60									
7	西洋教育思想の展開と社会背景(3)	北方ルネサンスと人間の経験的知の重視	配布プリントを読みまとめる。 とりわけ「神の支配」から脱する人間の実践を考える		60 60									
8	近代教育原理としての2本の柱及びルソーとペスタロッチの教授法	1~7回までの総復習として「2本の柱」(歴史を貫く教育的人間の思想)をディスカッション。 「自然人」の教育、開発教授法	ディスカッションの内容をまとめる。 期日設定し、提出する		30 60									
9	産業革命と教授法の改革、近代教育制度の成立と展開	助教法。ヘルバート教授法。義務教育及び公教育の思想：unpopular education から権利としての教育へ	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60									
10	公教育制度の発展と整備(教育及び学校の変遷)：	公教育の制度的整備と、多様の教育実践の試み(ニイル、モンテッソリ一等)、世界新教育運動など。	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60									

11	日本教育史での unpopular educationについて	寺子屋教育と識字率の向上、明治維新後の近代教育の意味	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
12	戦後日本の教育改革	戦後教育改革、学習指導要領の意味と変遷	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。 演習問題の取り組みと提出	60 120
13	今日日本の教育問題	「ゆとり世代」の諸問題。学力問題。 PISA 学力とは?	配布プリントを読み、意見・感想を発表する準備。 授業のまとめ	60 60
14	特別支援教育の諸問題	小1 プロブレムなど問題を抱えた子どもたちの発見・対応。ディスカッション	授業のまとめ。ディスカッションの内容をまとめる。 期日設定し、提出する。	60 120
15	発達障害を理解する	小1 問題を想起しながら、発達障害の基本を理解する。学級での包摂と自立を考える。	いろいろな障害の種類と、これまでであった経験を書いてくる。 自分が障害を持っていたらという想定で教育を考えてみる。	60 60
	定期試験			
【テキスト】 隨時、関連資料を配付				
【参考書・参考資料等】				
【学生に対する評価】 出席・討議 (50%) レポート (30%) 試験 (20%) で総合的な評価を行う。				
【実務経験内容】 高校教諭 (校長)				

教科番号	6511	授業科目名	教師論											
教員の免許状取得のための必修科目														
開講時期	前期	単位数	2単位	担当教員名	原北 祥悟	担当形態	単独							
科目	教育の基礎的科目に関する科目													
施行規則に定める科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)													
【授業の到達目標及びテーマ】														
本講義では、大学の教職課程とは何か、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならぬのかなど、教職に関わる基本的な知識や考え方を理解することを目的としている。内容は、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、進路選択に資する各種の機会提供等を主たる要素として構成する。また、現在の教員の現状やかれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえる。そのうえで、さまざまな教育実践をみながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。以下、到達目標を挙げる。														
わが国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解している。(知識・理解)														
教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質・能力を理解している。(知識・理解)														
教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解している。(知識・理解)														
教員に寄せられる期待に応えようとし、積極的にコミュニケーションをとることができる。(技能)														
学校内外の専門家等と連携・分担して対応しようとする態度を身に付けている。(態度・志向性)														
教職の意味を深く考え、自己の進路イメージを具体的に考えようとする態度を身に付けている。(態度・志向性)														
【授業の概要】														
この講義科目は教職専門科目の一領域「教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)」として開設されている教職専門科目の基礎的科目の一つである。														
なぜ、大学1年のこの時期に、「教職」を将来の選択肢のひとつに選んだのだろうか。なぜ、「教育」について学ぼうと思ったのだろうか。おそらく「教育」に何らかの興味、関心があったからであろう。それぞれの教育についての関心は自分の教育経験に由来しているはずである。														
今日、指導が不適切な教員や教員の不祥事などをめぐるマスコミ報道も多く、地域社会や保護者の学校や教員への信頼が失われているともいわれている。また、学校や担任への苦情への対応や生徒指導の難しさなど、教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちが求められている。また、「チーム学校」の意識も促され、教員一人ひとりの役割が強く求められる時代となった。一方で、若い世代に直接に触れることができ、生徒とともに成長できるのも教職に就いた者の特権でもあり、教育は人の成長に関わるかけがえのない仕事もある。本講義ではこのような教職のリアルを丹念に追うだけではなく、グループ活動等を通して今日の教育をめぐる諸課題に対する自分なりの”答え”を見つけ出してもらう。														
【授業計画】														
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題(予習・復習)		時間(分)									
1	オリエンテーション	大学の教職課程・カリキュラムの構成	テキスト(該当箇所を提示)を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
2	教員養成と教員採用	データに基づく教員養成と教員採用の現状	テキスト(該当箇所を提示)を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
3	教職とはどんな職業なのか①	教員の資質論議を整理して、教職の実態を整理する	テキスト(該当箇所を提示)を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
4	教職とはどんな職業なのか②	学校以外の「教員」との比較を踏まえて教職の特質を探る	テキスト(該当箇所を提示)を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
5	教職への道・教職の歴史①	教師像の変遷と現代教師論	テキスト(該当箇所を提示)を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
6	教職への道・教職の歴史②	新しい役割(進路・職業指導、地域とのつながり)	テキスト(該当箇所を提示)を読む。 授業プリントの復習。		30 60									

7	教職員①	職務の整理（授業者、担任、組織における分業者としての教師）	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。	30 60
8	教職員②	よりよい授業づくりを目指す教育実践	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。	30 60
9	教師の日常世界①	教員の学びと多忙化する日常	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。	30 60
10	教師の日常世界②	教師の成長と葛藤	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。	30 60
11	教師の日常世界③	多様化する生徒の実態への対応	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。	30 60
12	教師の専門性と力量	教師に期待される専門性、力量とは何か	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。	30 60
13	教職の方向性①	養成・採用・研修（育成指標の理解）	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。	30 60
14	教職の方向性②	これからの中学校と教師	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。	30 60
15	総括	教職をめぐる今日的課題を整理する	全授業プリントのまとめと整理。	60
	定期試験			
【テキスト】九州大学大学院教育法制研究室編『教職論エッセンス—成長し続けるキャリアデザインのために—』花書院。				
【参考書・参考資料等】授業中に適宜配付する。				
【学生に対する評価】課題提出状況（20%）、定期試験の結果（80%）に基づいて総合的に評価する。				
【実務経験内容】なし				

教科番号	6562	授業科目：教育経営論											
教員の免許状取得のための必修科目													
開講時期	2年後期	単位数	2単位	担当教員名	原北 祥悟	担当形態	単独						
科 目	教育の基礎的理義に関する科目												
施行規則に定める科目区分	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)												
【授業の到達目標】													
教育の成果や教員の資質能力を高めるため、教員が、日本国憲法や教育基本法等の諸法規に基づいて教育が推進されていることを理解し、認識する必要がある。そこで教員を志す学生が、近代学校制度や学校教育に関する諸法規等を理解し、教育の基礎理論を身につけて教員となるよう、講座全体を通じて教育指導を行う。													
【授業の概要】													
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を学習して教育制度や学校経営等を理解するとともに、教育基本法や学校教育法等の諸法規についても学習を深め、教育を法的に考察させるようにする。													
また、日本及び諸外国の教育改革の現状を概観する。さらに、小テストやディスカッションも取り入れて理解を深めさせる。また、アクティブラーニングについても積極的に取り入れて実施していく。													
【授業計画】													
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時 間 (分)									
1	学校の歴史的性 格	学校の概念、私教育から公教育 へ	テキスト(該当箇所を指示する) を読む。授業プリントを復習。	30 60									
2	学校制度の構造	近代国民教育制度（公教育）の 成立と分岐システム	テキスト(該当箇所を指示する) を読む。授業プリントを復習。	60 60									
3	日本の学校制度、 戦前と戦後。	国民教育の理解を深める 制度図の違いを読み取る	テキスト(該当箇所) を読みまと める。復習と小テストの準備。	30 60									
4	教育行政の成り 立ちとあり方	英米型と大陸型の行政観の違い と意味を理解する。	プリントの行政関連英語句・用 法を自分で調べて訳してみる。 提出。	30 60									
5	教育基本法と教 育行政の基本	特に教育内容行政の原理を理解 する。小テストの実施。	テキスト(該当箇所) を読みまと める。授業の復習をする。	60 60									
6	教育委員会制度 の成立と変容	教育委員会の組織と構成、を理 解する：父母代表の教育委員の 意味	テキスト(該当箇所) を読みま とめる。授業の内容を復習する。	30 60									
7	教育委員会の改 革と権限	教育振興基本計画の意味と教育 委員会の果たす役割	配布プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	120 60									

8	教員の服務の基本的考え方	全体の奉仕者という理念の理解 身分上の義務、職務上の義務を事例を交えて理解させる。	配布プリント（事例、飲酒運転など）を読んで考えてこさせる。 服務を法規を根拠に纏めさせる。	30 60
9	学校経営(1)	学校教育活動の年間の流れと、まとまりとしての「学年」の果たす役割の理解。校長の権限と職員会議、学校評議員制度。	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
10	学校経営(2)	学校経営の基本、子どもの学校生活と校務分掌。教職員の種類と職務。評価制度の意義とあり方、PDCAの理解。	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
11	学校経営(3)	コミュニティ・スクールの意味：安心・安全な学校づくりと地域づくりへの参加	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。授業の内容を復習する。	60 60
12	学級経営	学級経営の計画、生徒の実態把握、保護者との連携。いじめへの対応。	配布プリントを読み、意見・感想を発表する準備。授業のまとめ。	120 60
13	現代日本の学校教育	学力向上の問題（PISAの学力の意味）と、選択制度の拡大	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
14	諸外国の教育改革	世界の改革動向で何が問題となっているかを理解する。	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。授業の内容を復習する。	60 60
15	まとめ	まとめと総括。小テストの実施	小テストの準備。 ノートの整理とまとめ。	60 120
	定期試験			

【テキスト】 『新訂第3版 図解・表解 教育法規』、坂田仰他編、教育開発研究所

【参考書・参考資料等】 授業中に適宜配布する。

教育開発研究所編『教育の最新事情がよく分かる本3』

【成績評価基準・方法】 ノート取得状況&レポート（30%）、小テスト（10%）、試験（60%）で総合的な評価を行う。

【実務経験内容】 なし

教科番号	6514	授業科目名	教育心理学 (英文 Educational psychology)								
教員免許取得のための必修科目／選択科目											
開講時期	前期	単位数	2 単位	担当教員名	永田 正明	担当形態					
科 目	教育の基礎的理解に関する科目										
施行規則に定める科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程									
【授業の到達目標及びテーマ】											
・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。											
【授業の概要】											
一般心理学ではなく、教育心理学がなぜ教職課程で必要とされるのかを本講義全般を通して理解できるようにしたい。また、特に児童青年期に心が大きく成長してゆくと同時に、健全な人間形成と学習活動が成されなければならず、人間として最も重要な時期でありそれなりの発達課題があることを理解したい。											
【授業計画】											
回数	題 目	授 業 内 容		学習課題		時間(分)					
1	教育心理学の特徴	一般心理学と教育心理学の特徴を押さえ、教育の中でも心理学が生きてくることを理解する。		テキスト概説 心理学会とは	講義 80 ノート 10						
2	発達心理学	発達を規定する要因、発達段階と発達課題について、ピアジェ理論及び遺伝と環境問題とは何か。		テキスト解説 有力理論のまとめ	講義 70 整理シート 20						
3	やる気を高める①	「動機づけ」の意味と重要性を理解し、学習でのキーワードであるが故に永久的な難問である。		テキスト解説 理論・歴史まとめ	講義 70 整理シート 20						
4	やる気を高める②	学習意欲を規定すると予測される要因について理解する。学習性無気力理論や自己効力理論		発見学習 論文に触れる	要因探し 50 講義 40						
5	学習のメカニズム	学習の基礎としての条件づけの要素を理解し、問題解決の方略を見る。		考えつく要素を話し合う。	問題討議 30 整理シート 60						
6	授業の心理学	習熟度別授業や個別授業はどんなメリットがあり、デメリットは何か。総合学習の意義を考える。		高校時代の経験で討議し意義を問う	問題討議 30 整理シート 60						
7	教育評価の本当の意味を問う	評価の持つ意味を改めて考え、教師の行うべき良い評価方法を考えてみる。		現行の評価について議論する。	問題討議 30 整理シート 60						
8	性格の理解①	パーソナリティーの形成と諸理論及び測定方法を理解する。妥当性と信頼性概念。		テキスト解説 参考資料の紹介	講義 70 整理シート 20						
9	性格の理解②	パーソナリティーの代表的測定方法である質問紙法を実際に使用しながら理解する。		無料質問紙の紹介 質問紙の実施	講義 20 実施 70						
10	性格の理解③	自分たちで実施した質問紙をデータ化して、パソコンによる統計分析にチャレンジしてみる。		パソコンでのデータ入力と出力実践	実践 70 整理シート 20						
11	知的能力を考える	知的能力の発達と測定、創造性と学力及び学力不振と何かを考える。アメリカの大学入試問題は？		テキスト解説 学力不振指導検討	講義 60 課題討議 30						
12	社会性を育む	向社会的行動・共感性・役割取得問題・道徳性・親子関係・仲間関係といった概念を知る。		テキスト概説 まとめ	講義 70 整理シート 20						
13	学級の心理学	学級集団、教師子供関係の複雑さを知る。教師期待効果、光背効果、ラベリングなどについて。		テキスト概説 まとめ	講義 70 整理シート 20						
14	不登校問題を考える	不登校生徒の実態を知ることから始める。学級担任・養護教諭・学校カウンセラーのすべきこと。		各種データを概説 事例を考える	問題提示 20 整理シート 70						
15	障害児を考える	どのような障害があり、現在どのように対応しているのかを知り、障害児教育とは何かを考える		テキストや参考資料を見て考える	講義 70 整理シート 20						
	定期試験										

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：永田 正明 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎理論に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
授業の到達目標及びテーマ さまざまな特別の支援を必要とする生徒の心身の発達や特性、学習過程などを理解し、個々の生徒を学級や学校で支援するだけでなく、家庭や地域にも支援の輪を広げていく方法を身につけることをめざします。 ①特別の支援を必要とする生徒のニーズについて基礎的・基本的な知識を理解する。 ②特別の支援を必要とする生徒と保護者が地域の方々と「共生」する支援方法を理解する。 ③新しい特別な支援を必要とする生徒を理解し、支援の方法を理解する。						
授業の概要 知育・德育・体育の三位一体によって人格の完成をめざす教育を実践するという教師の使命は、特別な支援を必要とする生徒との「共生」（共に学ぶ）姿勢を学級づくりに活かすことにより強固なものになることを、具体的な実践例やアクティブ・ラーニングを通して学習します。						
授業計画 第1回：特別支援教育とは何か。 第2回：インクルーシブ教育への流れ（分離から統合へ） 第3回：知的障害・発達障害 第4回：視覚障害、聴覚障害、言語障害 第5回：肢体不自由児（者）、病弱・虚弱児（者） 第6回：自閉症スペクトラム障害 第7回：国際化の社会（クロスカルチャー、異文化共生） 第8回：「共生」への学級づくり						
テキスト 『よくわかる教育相談』（春日井敏之・伊藤美奈子 編著、ミネルヴァ書房） ※（科目「教育相談」で使用したものと同一である）						
参考書・参考資料等 授業中に適宜指示する。						
学生に対する評価 授業への参加（50%）、レポート（50%）で総合的に評価します。						
実務経験内容 高校教諭（校長）						

教科番号	6515.	授業科目名	教育課程論 (Educational Curriculum Theory)				
教員免許取得のための必修科目／選択科目							
開講時期	2後	単位数	2単位	担当教員名	萩原 和孝	担当形態	単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）						

【授業の到達目標及びテーマ】

教育課程の意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントの意義や必要性を理解し、教育課程全体の中での位置づけを意識した各教科等の年間指導計画・授業づくりへの意識・意欲・態度を形成し、教育課程編成能力の基礎を培う。

到達目標：①教育課程の目的、役割・機能・意義を、学習指導要領の法的な位置づけや歴史的変遷などを含めて理解している。

②教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、教科等横断的な視点で「総合的な学習の時間」などの年間指導計画を作成することができる。

③教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、PDCAサイクルなどの学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解している。

【授業の概要】

前半は、日本における教育課程や学習指導要領の歴史的変遷などを通じて、各時代の教育課程の編成原理や社会的背景等を学び、教育課程の役割・機能・意義、教育課程編成の基本原理を理解する。中盤は、2017年・2018年に告示された新学習指導要領や中央教育審議会の答申などから、今日求められているカリキュラム・マネジメントを含む教育課程のあり方や編成の視点、地域社会との連携・協働、教育評価（学習評価・学校評価）、学校組織などについて理解する。後半は、特色ある教育課程やオルタナティブ教育などにも目を向け、教育課程のあり方についての視野を広げる。また、教科等横断的視点にもとづいた「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成を行う。さらに定期的に小テストを行い、知識の定着を図る。

【授業計画】

回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)
1	教育課程の役割、機能、意義	教育課程とは。教師の専門性としての教育課程編成能力。基準としての学習指導要領の位置づけ。	テキスト(p.1~14)を読む。 授業の内容を復習する。	30 60
2	教育課程の基本原理、類型、構造	スコープ・シーケンス、経験主義（デューイの教育観）・系統主義など。	テキスト(p.15~26)を読む。 授業の内容を復習し、小テストに備える。	60 60
3	日本における教育課程の変遷と社会的背景（1）	前回までのふり返りの小テスト。 明治・大正・昭和初期の教育課程。	テキスト(p.27~31)を読む。 授業の内容を復習する。	30 60
4	日本における教育課程の変遷と社会的背景（2）	学習指導要領の変遷（戦後「新教育」～教育課程の現代化）。 学習指導要領の性格・位置づけの変化など。	テキスト(p.32~35)、『学制百二十年史』（第二編第一章の概説、第二編第二章の概説）を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
5	日本における教育課程の変遷と社会的背景（3）	学習指導要領の変遷（人間中心カリキュラム、「生きる力」「ゆとり」「確かな学力」など）	テキスト(p.32~35)、『学制百二十年史』（第三編第一章第一節）を読む。 授業の内容を復習し、小テストに備える。	60 60
6	新学習指導要領改訂の背景と特徴（1）	前回までのふり返りの小テスト。 「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「特別の教科 道徳」の新設、「教科等横断的な視点」などの背景や意義。	学習指導要領第1章総則を読む。 授業の内容を復習する。	60 60
7	新学習指導要領改訂の背景と特徴（2）	「資質・能力の3つの柱」について、中学校技術・家庭科の技術分野におけるそれぞれの具体例を、	下記参考資料に示した中央教育審議会答申の第5章を読む。 「資質・能力の3つの柱」について	60 60

		ブレーンストーミング・KJ 法を用いて考え、整理する。	て、授業で行った整理をもとに考え、感想文を提出する。	
8	教育課程と評価	評価の意義・役割。指導要録。学習評価の分類。パフォーマンス評価など。	テキスト(p.161~177)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
9	地域と学校の連携・協働	「社会に開かれた教育課程」、コミュニケーションスクール（学校運営協議会）、学校評議員、学校支援地域本部など。	文部科学省 HP に掲載されている「コミュニケーション・スクールパンフレット」を読む。 授業の内容を復習する。	30 60
10	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの三つの側面（教科等横断的な視点、PDCA サイクルの確立、人的・物的資源等の効果的組み合わせ）。『学校評価ガイドライン』など。	中学校学習指導要領総則の解説（第3章第1節4）を読む。 授業の内容を復習し、小テストに備える。	60 60
11	教育課程編成と学校組織	前回までのふり返りの小テスト。 教育課程編成の主体。学校組織（校務分掌）。部活動の位置づけなど。	テキスト(p.37~50)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
12	学校種ごとの教育課程編成の特徴	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・義務教育学校・中等教育学校の教育目的、教育課程の実際。小中連携・一貫教育など。	テキスト(p.51~92)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
13	特色ある教育課程やオルタナティブ教育	国内の特色ある教育課程（上越カリキュラム、私立のシャタイナー教育など）や、NPO 法人、フリースクール、諸外国の教育課程の理論や実践	テキスト(p.64、 127~141)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
14	教育課程の計画・実施・評価・改善	教科等横断的な視点に配慮した「総合的な学習の時間」の年間指導計画を作成し、発表する。	総合的な学習の時間などの年間指導計画を事前に入手し、それらに参考に、新規の指導計画または改善した計画を作成する。 他の受講生の発表や指摘を受けて、さらに計画を改善する。	120 60
15	まとめ	教師の専門性としての教育課程編成能力について考え、発表する。 学習のふり返りの小テスト。	発表の準備、小テストに備える。 評価試験に備える。	60 60
【テキスト】 古川治ほか『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房、2019年				
【参考書・参考資料等】 以下、いずれも文部科学省ホームページに掲載されている。 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領（平成 29 年告示、文部科学省）および総則の解説 ・高等学校学習指導要領（平成 30 年告示、文部科学省）および総則の解説 ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成 28 年 12 月、中央教育審議会 ・『学制百年史』『学制百二十年史』。 ・その他、随時配布または指示する 				
【学生に対する評価】 定期試験(50%)、第 14 回の発表(40%)、小テスト (10%) で総合的な評価を行う。				
【実務経験内容】				

教科番号	6532	授業科目名	特別活動論											
教員の免許状取得のための必修科目														
開講時期	前期	単位数	2 単位	担当教員名	原北 祥悟	担当形態	単独							
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目													
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別活動の指導法													
【授業の到達目標及びテーマ】														
特別活動に対してどのようなイメージを持っているだろうか。「学級活動」（学活）という言葉は聞いたことはあっても、「特別活動」は聞いた覚えがないかもしれない。そもそも特別活動とは何が「特別」なのだろうか。														
特別活動は教育課程内に位置付けられている重要な教育活動の一つである。「望ましい集団」をベースとして展開される点に最大の特長があり、”Tokkatsu”として海外で注目されている。経済成長の要因を教育に求め、国際学力テストの成績上位国の「成功」の秘訣を探り、教育政策にトランスファーする動向が強まっている。経済的にも「学力」的にも国際的な存在感が低下している日本ではあるが、大震災発生後の被災者の秩序正しさの要因を学校教育の成功、とりわけ特別活動（掃除、給食当番、学校行事）の成果に求める声があがり、ふたたび関心が高まっている。														
日本の学校教育の代表的な教育実践ともいえる特別活動の実際やそれを取り巻く諸問題を取り上げ、グループ活動等を通して特別活動に関する知識及び基本的な指導法の習得を目指す。														
【授業の概要】														
この講義科目は教職専門科目の一領域「特別活動の指導法」として開設されている教職専門科目の基礎的科目の一つである。特別活動の全体像に関する説明を行った後、各回「演習課題」に取り組んでもらう。受講者が生きてきた時間の多くは「教育を受けてきた」歴史であり、自分史＝被教育史といつてもよいだろう。「思い出の宝庫」でもある特別活動に関する演習課題に取り組み、「望ましい集団づくり・人間関係づくり」の在り方や指導法を受講者同士で議論するとともに、自分がどのように育てられてきたか、自身は何者なのかについても考えもらう。														
【授業計画】														
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）		時間(分)									
1	オリエンテーション	教育職員免許法における特別活動の位置と特別活動の意義	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
2	特別活動の歴史	「個」と「集団」の関係性	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
3	クラブ活動・部活動	「自発的・自治的」理念と今日の状況	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
4	学級活動（1）	学級づくり	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
5	学級活動（2）	学級指導	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
6	学級活動（3）	キャリア形成と自己実現	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
7	児童会・生徒会活動	「自治的能力」や「社会参画する力」	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
8	学校行事の歴史	制度や意味が生成した現場との社会史的考察	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
9	学校行事の種類（1）	文化的行事	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
10	学校行事の種類（2）	健康安全・体育的行事	テキスト（該当箇所を提示）を読む。 授業プリントの復習。		30 60									
11	学校行事の種類	旅行・集団宿泊的行事	テキスト（該当箇所を提示）を読む。		30									

	(3)		授業プリントの復習。	60
12	学校行事の種類 (4)	勤労生産・奉仕的行事	テキスト(該当箇所を提示)を読む。 授業プリントの復習。	30 60
13	学校行事の種類 (5)	儀式的行事と国旗国歌の取り扱い	テキスト(該当箇所を提示)を読む。 授業プリントの復習。	30 60
14	学校行事の種類 (6)	儀式的行事と学校文化	テキスト(該当箇所を提示)を読む。 授業プリントの復習。	30 60
15	総括		全授業プリントのまとめと整理。	60
	定期試験			

【テキスト】九州大学大学院教育法制研究室編『特別活動エッセンス—望ましい人間関係づくりのために—』花書院。

【参考書・参考資料等】授業中に適宜配付する。

【学生に対する評価】課題提出状況、定期試験の結果に基づいて総合的に評価する。

【実務経験内容】 なし

授業科目	教育の方法と技術	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名： 小林博典					
開講時期	後期								
科 目		教職に関する科目（道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目）							
各科目に含めることが必要な事項		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）							
【授業の到達目標及びテーマ】									
これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。									
【授業の概要】									
子供たちの資質・能力を育成するための教育方法、授業を構成する要件、学習評価に対する考え方について、実践事例を紹介しながら解説する。また、情報メディア活用の歩み、情報メディアの種類や機能、映像の認知等の検討を通して、教育の目的に応じた指導技術を整理した後、学習指導案を作成する。さらに、興味・関心を高めたり課題をつかませたり学習内容をまとめさせたりするための情報機器の活用法及び情報活用能力を育成する指導法について学ぶ。									
授業計画									
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)					
1	資質・能力の育成と教育方法	実践事例や小学校・中学校学習指導要領を参考に、子供たちの資質・能力を育成するための教育方法の在り方にについて検討する。また、情報メディアの活用等、教育方法の工夫・改善について解説する。	●テキスト1の第1章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	45分 45分					
2	授業の構成要件と学習環境	授業を構成する要件（児童生徒、学級、教員、教室、教材）を整理した上で、情報メディアによる学習環境の充実について解説する。また、学習評価とともに授業の構成要素や学習環境を検討する意義について解説する。	●テキスト1の第2章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	45分 45分					
3	映像等の認知と学習評価	映像等の認知の特性を整理し、学習評価をもとに、教育方法を省察する意義について検討する。	●テキスト1の第5章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	45分 45分					
4	博物館・図書館と教育方法	博物館・図書館を活用した教育方法について紹介し、社会に開かれたカリキュラムについて検討する。また、学習・情報センターとしての学校図書館の役割について確認する。	●テキスト1の第4章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	45分 45分					
5	教育の情報化	情報メディアの中でも、特にコンピュータやインターネットの活用に焦点を当て、学校教育における情報化の意義と歩みを整理する。	●テキスト1の第6章を読み、まとめる。 ●テキスト2の第1章との関連を整理する。	45分 45分					
6	情報活用能力の育成	学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力を育成する意義と方法について、国内外の動向を整理しながら解説する。	●テキスト1の第3章を読み、まとめる。 ●テキスト2の第4章との関連を整理する。	45分 45分					
7	情報モラル教育	ICT活用指導力「D 情報モラルなどを指導する能力」を解説し、情報モラル等を指導する際の留意点について整理する。	●テキスト2の第5章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	45分 45分					

8	目的に応じた指導技術	ICT 活用指導力「A 教材研究・指導の準備・評価などに ICT を活用する能力」と「B 授業中に ICT を活用して指導する能力」について解説し、教育の目的に応じた指導技術について検討する。	●テキスト2の第3章を読み、まとめる。 ●テキスト2の第2, 7章との関連を整理する	45分 45分
9	各種情報の分析・共有と学習指導	ICT 活用指導力「E 校務に ICT を活用する能力」を解説しながら、各種情報の分析・共有による学習指導等の改善について解説する。	●テキスト2の第6章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	45分 45分
10	授業実践演習 1-1	プレゼンテーションソフト（フラッシュ型教材等）による教材開発と授業デザイン	●教科等のねらいを達成するため有効なフラッシュ型教材を構想する。	90分
11	授業実践演習 1-2	教育の目的に応じた指導技術に留意しながら、学習指導案を作成する。	●フラッシュ型教材を活用する際の生徒への働きかけ方を整理する。 ●相互評価の結果を整理する。	45分 45分
12	授業実践演習 1-3	興味・関心を高めたり課題をつかませたり学習内容をまとめさせたりするための情報機器の活用法について留意しながら模擬授業を実施する。	●相互評価の結果を受け、フラッシュ型教材及び授業展開の改善方策をまとめる。	90分 45分
13	授業実践演習 2-1	映像コンテンツ活用を含む授業の学習指導案を作成する	●インターネット上に公開されている映像コンテンツを選択し、内容や構成の特徴を整理する。	90分
14	授業実践演習 2-2	映像コンテンツを活用した模擬授業を実施し、相互評価を行う	●模擬授業を振り返り、映像コンテンツの活用法及び授業展開について改善方策をまとめる。	45分 45分
15	まとめ	教育の方法論、教育の目的に応じた指導技術、また情報メディア活用について総合的に整理し、教師に求められる力量について確認する	●ICT 活用指導力など、メディアを教育的に活用する力量を自己評価し、改善策をまとめる。	90分
【テキスト】				
・テキスト 主体的・対話的で深い学びの環境と ICT ～アクティブラーニングによる資質・能力の育成～ 久保田賢一・今野貴之 編著 東信堂				
【参考書・参考資料等】 井上知義、視聴覚メディアと教育方法 Ver. 2、北大路書房				
【成績評価基準・方法】 ノート取得状況&受講態度（40%）、レポート（30%）、試験（30%）で総合的な評価を行う。				
【実務経験内容】				

教科番号	6535	授業科目名	生徒指導論（ Theory of Methods of Student Guidance ）						
教員免許取得のための必修科目／選択科目			必修科目						
開講時期	後期	単位数	2 単位	担当教員名	担当形態				
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目								
施行規則に定める科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法。進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法。								
【授業の到達目標及びテーマ】									
生徒指導と進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を理解し、実践的な指導ができる目標とする。									
【授業の概要】									
生徒指導の意義や原理を理解し、一人一人の生徒のよさや特徴を理解して適切な指導・援助が行えるように学習する。また、いじめ問題や不登校への理解と対応についても具体的な事例を通して理解する。									
進路指導及びキャリア教育の意義や原理を理解し、全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。更に、キャリア発達に沿ったキャリア教育の在り方とその課題についても理解する。									
また、アクティブラーニングについても積極的に取り入れた授業内容を実施する。									
【授業計画】									
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)					
1	生徒指導の目的・意義	生徒指導の究極の目的、生徒の自己指導能力を育てるための指導について学ぶ。	資料のP 1を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60					
2	生徒指導と生徒理解	生徒指導の基盤となる生徒理解。学校全体で進める生徒指導。集団指導と個別指導について学ぶ。	資料のP 2～3を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60					
3	生徒指導と教育課程との関連	教育課程における位置付け。教育課程の共通性と生徒指導の個別性について学ぶ。	資料のP 4～5を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60					
4	教育課程と生徒指導との相互作用	生徒指導と各教科以外の道徳教育・特別活動・総合的な学習との関連について学ぶ。	資料のP 6～7を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60					
5	教科における生徒指導の意義と推進	学習指導における生徒指導。学ぶことの意義、主体的な学習態度、居場所づくりについて学ぶ。	資料のP 8～10を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60					
6	教育心理学の立場からの生徒指導	その生徒のための指導・援助。指導サービスと援助サービスの在り方とその方法等について学ぶ。	テキスト(P17~19) を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60					
7	新しい生徒理解の捉え方と進め方	心理教育的な指導・援助の在り方と3つの側面からの生徒理解について学ぶ。	テキスト(P20~22) を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60					
8	生徒指導の方法と指導原理	生徒を観察するポイントと指導原理。生徒指導の組織体制と生徒指導計画等について学ぶ。	テキスト(P23~28) を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60					
9	生徒指導に関する主な法令と対応	生徒に対する体罰禁止に関する心得。生徒間暴力の事例を基にした暴力行為への対応を学ぶ。	テキスト(P123~128)を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60					
10	いじめ問題の理解と対応	いじめ問題の事例をもとに、その対応等についてグループ討議を行い、発表する。	いじめ問題の事例を読み、その対応等についてレポートを作成する。 授業の内容を復習する。	120 60					
11	進路指導及びキャリア教育の意義	進路指導・キャリア教育の目的と意義。また、その視点と指導の在り方について学ぶ。	テキスト(P43~47) を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60					

12	キャリア教育の進め方と課題	キャリア教育の進め方とキャリア発達の支援のあり方。進路をめぐる最近の課題について学ぶ。	テキスト(P48~51) を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	3 0 6 0
13	進路指導の組織的な指導体制	進路への関心・意欲を持たせる支援の在り方。勤労観と職業観を育てる教育について学ぶ。	テキスト(P52~55) を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	3 0 6 0
14	体験活動と進路情報	キャリア教育としての職場体験、インターンシップ、ボランティア活動等について学ぶ。	テキスト(P56~61) を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	3 0 6 0
15	進路指導とキャリア教育のまとめ	体験活動について、各自で作成したレポートを基にグループ討議を行い、発表する。	体験活動についてレポートを作成する。 授業の内容を復習する。	1 2 0 6 0
	定期試験			

【テキスト】 生徒理解・指導と教育相談 牟田悦子 編 (学文社)

【参考書・参考資料等】 立ちどまつてもいいんだよ 切手純孝 著 (高城書房)

生徒指導提要 文部科学省 著 (教育図書)

【学生に対する評価】 ノート取得状況&受講態度 (30%) 、中間テスト (10%) 、定期試験 (60%) で総合的な評価を行う。

【実務経験内容】

教科番号	6528	授業科目名	教育相談（英文 Educational counseling）												
教員免許取得のための必修科目／選択科目															
開講時期	前期	単位数	2 単位	担当教員名	永田 正明	担当形態	単独								
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目														
施行規則に定める科目区分又は事項等			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法												
【授業の到達目標及びテーマ】															
教育相談を進めるにあたり、生徒の発達の状況に即しつつ個々の心理的特徴や教育的課題を適切に捉え、心の支援をするために必要な基礎的知識を身につける。特に来談者中心療法について正しい理解をする。また今日的な課題である、いじめ・不登校・特別な支援を必要とする生徒に対するカウンセリングの知識及び方法を理解できるようになる。															
【授業の概要】															
学校における教育相談の必要性と理論・相談方法について学ぶ。学校の教師から見た場合、生徒に対する指導といわゆるカウンセリングとの違いが曖昧になっていることが多い。生徒・保護者との相対する話し方一つでもって大きな溝ができる、生徒のやる気問題や不登校問題にまで発展するケースは珍しくないことまで理解したい。															
【授業計画】															
回数	題 目	授 業 内 容			学 習 課 題	時間(分)									
1	教師とカウンセリング	これまでの教育相談に対する自己認識を確認して、教育相談がいかにあるべきかを考える。			教育相談の認識 臨床心理学の視点	G討論 15 整理シート 75									
2	ロジャースの来談者中心療法①	教育相談がカウンセリングであって、生徒指導ではないことを正しく理解する。			ロジャースのカウンセリング事例	事例研究 90									
3	ロジャースの来談者中心療法②	前時のロジャース相談事例のどこに特徴があるのかを注意して抜き出してみる。3本柱			ロジャースのカウンセリング事例続	事例研究 90									
4	ロジャースの来談者中心療法③	ロジャース理論を念頭に置き考え出されたと思われる他の心理療法を知る。			心理療法とカウンセリング	講義 60 整理シート 30									
5	フロイトの精神分析①	古代人の夢観からフロイトとユングの夢分析について概観する。			夢、フロイト、ユングの結びつき	講義 90									
6	フロイトの精神分析②	巨匠フロイトがどんなことに取り組み、どんな成果を世にもたらしてきたかに触れてみる。			フロイトの心の構成論と力動論とは？	講義 60 図式まとめ 30									
7	フロイト派以後とカウンセラー	臨床心理士（スクールカウンセラー）の持つ力と学校教師の持つ力を見比べてみる。			なぜスクールカウンセラーが必要か？	講義 70 整理シート 20									
8	不登校を考える①	不登校の歴史とこれまでの考え方。現代の不登校や引きこもりを考える。			何が不登校の原因で助長するのか？	討議 30 講義 60									
9	不登校を考える②	不登校について事例問題を考えてみて、自分なりの対策を立てられるのか？			自分が教師だったら何ができるか？	事例問題 60 講義 30									
10	不登校を考える③	不登校問題への対策に限界はあるのか？現在の学校教育での対応を考えてみる。			別室登校と不登校認定、通信制課程	講義 70 整理シート 20									
11	不登校を考える④	学校での対応で復帰できなかった場合、最終的にどのような事態へ展開するのかを考えてみる。			フリースクールとNPO支援団体	問題討議 15 講義 75									
12	いじめ問題を考える	いじめ問題のどこに難しさがあるのか。教師にできることは何か考えてみる。			個人の問題なのか？昔はなかったのか？	問題検討 60 整理シート 30									
13	非行問題を考える	先ず非行を個人でできるのかどうか改めて考えてみる。非行の裏に何が存在するのかを考える。			非行の種類と原因を考えてみる。	問題討議 45 整理シート 45									
14	虐待問題を考える	児童虐待と親の叱責厳罰との異同点があるのかを考えながら、教師としてどうあるべきか。			虐待をどうやって知るのか？対処法	問題討議 45 整理シート 45									
15	発達障害を考える	発達障害の昔と今を知る。学校の取るべき対応は何かについて考えてみる。			障害の種類・特徴に応じた指導方法	講義 70 整理シート 20									
	定期試験														

教科番号	6544	授業科目名	教育実習 事前・事後指導 (Prior Afterward Guidance)									
教員免許取得のための必修科目／選択科目			必修科目 (中学校「技術」, 高等学校「工業」)									
開講時期	前期	単位数	1 単位	担当教員名	徳永博仁	担当形態	単独					
科目	教育実践に関する科目											
施行規則に定める科目区分又は事項等			教育実習 (学校インターフィップ (学校体験活動) を 1 単位まで含むことができる。)									
【授業の到達目標及びテーマ】 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習で得られた成果と課題等を省察し、教員として必要な知識や技能等を自らの課題として見出し解決に取り組むことができる。これらをとおして教育実習の意義を理解することを目標としている。												
【授業の概要】 教育実習の内容や方法を情報機器等を活用して解説し、教育実習を充実したものにするためにアクティブラーニングを取り入れ理解を深める。教育実習の準備から終了までの課程を想定して実習中の様々な課題についても解説する。特に、教育実習の中心課題である授業の展開については、模擬授業を実施して知識と技術の習得に努めさらに、教育実習後には具体的な体験をもとにまとめをしていく。												
【授業計画】												
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題 (予習・復習)			時間(分)						
1	教育実習の目的と意義、オリエンテーション	教師養成と教育実習、教育実習の目標、教育実習の内容、オリエンテーション	シラバスを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			30 60						
2	教育実習の事前研修	教育実習の事前研究、教育実習の形態、教育実習の評価項目	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			60 60						
3	教育実習の心得(遵守義務と責任)	教育実習の基本的な姿勢、教育実習の心得	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			30 60						
4	教育実習の内容1 (観察と実態把握)	学校経営、学校の組織、生徒理解、教育課程	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			30 60						
5	教育実習の内容2 (学校実務)	生活指導、学級経営、学校保健、学校内外の施設と環境	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			60 60						
6	授業設計、授業研究 (指導教員等の授業観察)	教材研究の実際、学習指導の実際、授業研究の実際、生徒の実態把握と課題	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			30 60						
7	教育実習直前の準備	教育実習日誌の意義、教育実習日誌の記入の留意点	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			30 60						
8	学習指導案とその書き方 (情報機器の活用)	学習指導案の形式とその書き方 (技術、数学、工業)	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			60 60						
9	学習指導案の作成と指導の実際1	学習指導案の作成と模擬指導 (中学校「技術」)	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			60 60						
10	学習指導案の作成と指導の実際2	学習指導案の作成と模擬指導 (高校「工業」機械、電気)	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			60 60						
11	学習指導案の作成と指導の実際3	学習指導案の作成と模擬指導 (高校「工業」建築、土木)	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。			60 60						
12	事後研究 1	報告書の作成 報告会 (自己評価)	教師のあるべき姿について考察する。 課題[先輩教師の講話感想]のまとめ			60 60						
13	事後研究 2	教育実習のまとめと自己研鑽課題 (教材研究、授業設計)、現職教員との懇談	提出課題のまとめ 授業の内容を復習する			60 60						
14	事後研究 3	教育実習のまとめと自己研鑽課題 (学級経営と学校経営)	学校活性化方策について調べる 授業の内容を復習する			60 60						
15	まとめ	授業全体を振り返り要点を確認する	配付資料の整理 授業の内容を復習する			60 60						
	定期試験											

教科番号	6546	授業科目名	教育実習Ⅱ (student teaching II)				
教員免許取得のための必修科目／選択科目			必修科目 (中学校「技術」)				
開講時期	前期	単位数	2単位	担当教員名	徳永博仁		
科 目	教育実践に関する科目		担当形態	当該実習校の指導教員との連携			

施行規則に定める科目区分又は事項等 教育実習（学校インターナシップ（学校体験活動）を1単位まで含むことができる。）

【授業の到達目標及びテーマ】

学校現場において指導教員を中心とした教育実習の体験をおして、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚し教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることを目標としている。

【授業の概要】

教育実習は、実習校において観察・参加・実習という方法で教育実践に関り、学校教育の実際を体験的・総合的に学修し、生徒の実態、学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。また、大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。

【授業計画】

題目と授業の内容

1 中学校教員免許取得希望者は、10日間（2週間）の教育実習に引き続き、更に5日間（1週間）の実習を行うこととする。

2 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項

- (1) 生徒との関わりを通して、学級や生徒の実態を理解し課題を把握することができる。
- (2) 指導教員等が実施する授業を視点を持って観察することができる。また、事実に即して記録し分析することもできる。
- (3) 教育実習校の学校運営について、学校経営方針や特色ある教育活動とそれらを実施するための組織体制について理解できる。
- (4) 学級担任や教科担任等の実務を理解できる。

3 学習指導及び学級経営に関する事項

- (1) 授業について教材研究をしっかりと行い、学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し授業を実践することができる。
- (2) 指導教員等の授業を参観することで、学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）の効果的な活用を観察し、自らの授業でも適切な場面で情報機器など効果的に活用できる。
- (3) 担任が行う朝や終了時のショートホームルーム（SHR）また、学級日誌や生活日誌など生徒との関わりを観察し、学級担任の役割と職務内容について実地に即して理解し、補助的な役割を担うことができる。
- (4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わることができる。

【テキスト】 教育実習の手引き、資料プリント

【参考書・参考資料等】 授業中に資料プリントを適宜配布する。

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説 教科「工業」編

【学生に対する評価】

教育実習校から送られてくる「教育実習成績評価表」、レポート「教育実習を終えて」の評価などを総合的に評価する。

【実務経験内容】 高校教諭（校長）

教科番号	6547	授業科目名 : 教職実践演習（中・高）	担当教員名 : 教職担当教員：中薦 政彦 教科担当教員：西村 久人			
開講期間	後期	単位数 : 2 単位				
科 目	教職に関する科目（教職実践演習）					
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○ ○ 学校現場の意見聴取			
受講者数	30 人					
【教員の連携・協力体制】						
<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程委員会を基軸に教職専任教員と教科担当教員が連携・協力して学生の指導にあたる。 ・授業計画の項目、第10回目から第13回目の講義では、教職専任教員・教科担当教員・実習協力校の教員がチームティーチングを編成し学生の指導にあたる。 ・「履修カルテ」を基に、学生個人の修学状況を把握し、さらには個性や動向についての知見を教職実践演習に携わる全教員が共有して学生の指導にあたる。 						
【授業の到達目標及びテーマ】						
<p>変化の激しい時代の学校教育においては、生徒の興味関心等に基づき、生徒自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成することが求められている。</p> <p>このために、教職を目指す者に最新の教育に関する動向等を踏まえつつ、教職の意義や教員の役割を再確認させ、教員の具体的な職務内容や学校現場の実態等について理解を深めさせ、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着を図るとともに、教員としての資質能力の向上を図る総合的な実践を行う。</p>						
【授業の概要】						
<p>実践的な体験を重視する観点から本講座は、教職経験のある複数の教職専任教員が担当し、授業内容をいかに実際の指導に活かすかという視点に立った、具体的な課題に沿って演習形式で進めていく。</p>						
授業計画						
回数	授 業 内 容		予習、復習			
1	イントロダクション（ガイダンス）、大学における本講座「教職実践演習」の位置づけを確認する。		60分 60分			
2	教育実習での経験から得た教職の意義、教員の役割、職務内容等は何かを視点（使命感・責任感・教育的愛情等）に沿ってグループ討論し、教師に求められる具体的な資質能力について発表する。		90分 60分			
3	学校の一員として、上司・同僚教師・職員との関係構築法についてロールプレイングをしながら習得する。（特に、新任教師として対応の具体について疑似体験）		60分 90分			
4	教員として、保護者や地域関係者との人間関係の構築法についてロールプレイングをしながら習得する。（特に、学級PTAの企画・運営やモンスター・ペアレント等への対応の具体について疑似体験）		90分 60分			
5	生徒の集会や保護者会における教師のスピーチの在り方をロールプレイングしながら習得する。（特に、全校朝会や学級PTAにおけるスピーチをテーマにそって疑似体験）		60分 90分			
6	教員として、生徒との人間関係の構築についてロールプレイングをしながら習得する。（特に、反社会的行動の生徒や校則違反生徒等への対応の具体について疑似体験）		60分 90分			
7	教員として、生徒との人間関係の構築についてロールプレイングをしながら習得する。（特に、不登校生徒への対応の具体について疑似体験）		90分 60分			
8	学級経営の意義を理解し、実際に中学校・高等学校の学級経営案を作成し、グループ討論を行う。（鹿児島第一中学校・高等学校との連携）		60分 90分			
9	現在の中学校・高等学校の様子を実際に見学し、学校現場の責任者より学校教育の課題等について講話を聞く。（鹿児島第一中学校・高等学校との連携）		60分 90分			
10	中学校の「技術・家庭科」「数学」の学習指導の実際を自作指導案に基づき展開し、グループ討論を行う。		90分 60分			

11	同上	90分 60分
12	高等学校の「数学」、「情報」、「工業」の学習指導の実際を自作指導案に基づき展開し、グループ討論を行う。	90分 60分
13	同上	90分 60分
14	教科の指導力とは何かをグループで討論し、今の自分に備わっている資質能力や不足している資質能力についてまとめる。	90分 60分
15	今求められている教師の資質能力とは何かを本講座の全体を振り返りながらまとめる。	90分 60分
【テキスト】 :配布資料		
【参考書・参考資料等】 :特になし		
【成績評価基準・方法】 :授業への参加状況。学習状況（意欲、協調性）等から教員として必要な資質能力の修得を総合的に評価する。複数の教員により、学校現場の視点も加味して多面的な評価を行う。		
【実務経験内容】 中学校教諭（校長）		